



研究用試薬

ヒストファイン

第一抗体

抗ビメンチンモノクローナル抗体(V9) (ヒストステイナー用)

(動物種：マウス)

包装：60テスト(12mL)

Code：718511

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

- 本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。
- 特異性及び抗原分布：ヒト組織中の57kDaのビメンチンと特異的に反応する。グリア線維性酸性プロテインやデスミンとは反応しない。内皮細胞、線維芽細胞および平滑筋細胞など多種の間葉系細胞と反応する。悪性線維性組織球腫などの軟部腫瘍組織には、ビメンチン以外の中間フィラメントは存在しない。

- クローン名：V9
- アイソタイプ：IgG1, κ
- 免疫原：ブタの目のレンズから精製したビメンチン
- 製法：ハイブリドーマの培養上清より得ている。

1. 内容

第一抗体・・・抗ビメンチンモノクローナル抗体(V9)(動物種：マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に12mLを含む。

2. 使用目的

組織・細胞中のビメンチンの染色。

ホルマリン固定パラフィン包埋切片の免疫染色に使用できる。

研究用としてのみ使用すること。

3. 使用方法

組織切片の場合、前処理(抗原賦活化)を必要としない([切片の準備][脱パラフィン]は裏面の■操作手順参照)。

■参考：組織の固定状況等により前処理(抗原賦活化)として10mMクエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたマイクロウェーブ処理をすることで、良好な染色結果が得られる場合がある(裏面の■参考参照)。

■組織の固定状況等が染色結果に影響を及ぼすため学会等が推奨する固定液や固定時間を遵守し、検体の取扱いには十分注意すること。染色条件を変更することで良好な染色結果が得られる場合があるが、組織へのダメージや偽陽性化、偽陰性化が起こるおそれがあるため、研究者自身の責任において至適条件をよく検討すること。

- 1) 本品を他の試薬とともに試薬ラックにセットする。各試薬のボトルキャップを外す。
- 2) ヒストステイナーの操作法に従って染色を開始する。
- 3) 染色終了後、セットした試薬はすみやかにボトルキャップをして2-8℃に保存する。

4. 染色方法の設定

反応時間を30分間とする。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	抗ビメンチンモノクローナル抗体(V9)
試薬略称(10文字)	VIM-MMr
バーコード	VIM-MMr
時間(分)	30

5. 貯法及び使用上の注意

1. 2-8℃保存。
2. 使用期限はラベルに記載されているので使用前に確認すること。
3. 使用前に室温に戻すこと。
4. 使用後は速やかに冷蔵保存すること。
5. 異なるロットの試薬や他製品の試薬を混ぜたりしないこと。

6. 取扱い上(危険防止)の注意

1. 使用期限の過ぎた試薬は使用しないこと。
2. 本品に関する化学物質の安全情報は安全データシート(SDS)を参照すること。
3. 本品を吸い込んだり、眼、口、皮膚、衣類などへの接触を避けること。
4. 本品の廃棄の際には、各施設や地域及び国のルールに従い、適切に廃棄すること。
5. 本品は、動物由来成分を含むので、取扱いに注意が必要である。
6. 本品にはアジ化ナトリウムが含まれている。アジ化ナトリウムは水道管に含まれる銅、鉛との反応によって爆発の危険性があるので、多量の水とともに洗い流すこと。
7. ヒト由来の検体は、感染の恐れがあるので適切な取扱い及び廃棄法を用いるとともに、免疫染色を実施するにあたって、関連技術及び操作法に充分習熟しておかなければならない。

7. 参考文献

- (1) Gabbiani G, et al. Immunochemical identification of intermediate-sized filaments in human neoplastic cells. A diagnostic aid for the surgical pathologist. Am J Pathol. 1981 Sep;104(3):206-16.
- (2) Denk H, et al. Proteins of intermediate filaments. An immunohistochemical and biochemical approach to the classification of soft tissue tumors. Am J Pathol. 1983 Feb;110(2):193-208.
- (3) Miettinen M, et al. Antibodies to intermediate filament proteins. The differential diagnosis of cutaneous tumors. Arch Dermatol. 1985 Jun;121(6):736-41.
- (4) Osborn M, et al. Monoclonal antibodies specific for vimentin. Eur J Cell Biol. 1984 May;34(1):137-43.
- (5) Azumi N, et al. The distribution of vimentin and keratin in epithelial and nonepithelial neoplasms. A comprehensive immunohistochemical study on formalin- and alcohol-fixed tumors. Am J Clin Pathol. 1987 Sep;88(3):286-96.
- (6) Buley ID, et al. Expression of intermediate filament proteins in normal and diseased thyroid glands. J Clin Pathol. 1987 Feb;40(2):136-42.

■操作手順

[切片の準備]

1. 切片を3-6 μ mに薄切し、poly-L-lysineまたはシラン等の切片用接着剤をコーティングしたスライドに貼り付け、37 $^{\circ}$ Cの恒温器で十分に乾燥させる。

[脱パラフィン]

2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS

■参考：10mMクエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたマイクロウェーブ処理の場合(おもて面の■参考参照)

前処理(抗原賦活化)：マイクロウェーブ(MW) 500W処理

- ①抗原賦活化液(下記記載)を染色パットに入れ、MW照射し沸騰させる。
- ②沸騰した抗原賦活化液に切片を浸し、MWを5分間照射する。
- ③再度、MWを5分間照射する。必要であれば、さらにもう一回、MWを5分間照射する。
※MW照射による沸騰で緩衝液は蒸発する。蒸発により抗原賦活化液が減少し、切片の乾燥が危惧される場合は、ビーカー等であらかじめ沸騰させておいた精製水を減少した分だけ加えてからMW照射を行うこと。
※MW照射を1回(照射時間10-15分間程度)のみで行っても良い。
- ④染色パットごと切片を常温(15-25 $^{\circ}$ C)に20分以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。
※MW処理後は、染色パット及び抗原賦活化液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
- ⑤スライドを抗原賦活化液から取り出し、PBSで洗浄する(洗浄用容器を2度かえ3分間の洗浄操作を3回繰り返すか、又は洗浄びんを使用する)。

・抗原賦活化液

「10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)」の調製方法

A液9mL+B液41mL+精製水450mL(用時調製)

A液：0.1M クエン酸水溶液：常温で保存可能 クエン酸一水和物(C ₆ H ₈ O ₇ · H ₂ O)2.1g/精製水 100mL
B液：0.1M クエン酸ナトリウム水溶液：常温で保存可能 クエン酸三ナトリウム二水和物(C ₆ H ₅ O ₇ Na ₃ · 2H ₂ O)14.7g/精製水 500mL
ここから必要な時に調製する。